

都留市地名考

その二十一

窪田 薫

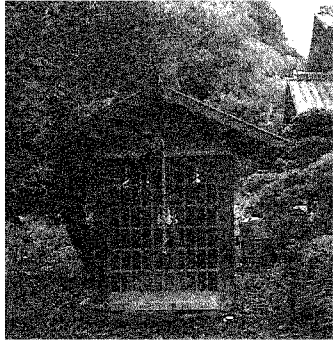
○四日市場・十日市場

市(いち)とは「神を祭る所」が原義で、歌垣や交易の場ともなっており、人々が多く集まる所の意ともなった。歌垣とは上代男女が集まって互いに歌を詠みかわし、舞踏をして遊んだことをいう。

後に市は多くの人が集まって物を売買したり、またその場所を指すようになった。自足経済が余剰生産物を増すにつれて、市は交易の機関として、交通便利な場所です定期的に開かれた。

四日市場の場合、生出神社を中心に毎月四日に、十日市場の場合小篠神社を中心に毎月十日に、市が定期的に実施されたので、その日を冠して四日市場・十日市場の地名が生まれたのである。

戦国期の城下町では多くの場合、商店は常設店舗ではなく、行商人が集まって市を開いたので、四日・十日の他、三日・五日・八日など



生出神社横に祀る四日市場市神祠

の市場が地名として全国的に残っている。

『甲斐国志』によると、四日市場について、天文二十四年(一五五五)の武田晴信(信玄)の文書のなかには四日市場の地名が記されており、十日市場については、此の村は昔は夏狩村と同村であったが、文禄三年(一五九四)の検地には、十日市場として別村として記されている。しかしそれ以前は夏狩村の大字十日市場として存在していたことと思われる。

市神には市杵島姫、事代主神(恵比須)、大國主神(大黒)の場合が多く、無記名の自然石や木柱など原初的な物も祭神とする場合もある。四日市場の祭神は大國主神で、十日市場はその御子の事代主神である。これらの市神が市場に祭られる時点には、両市場の地名が成立していたと考えられる。

四日市場に市神が祭られたのは文書によると天文一九年(一五五〇)で小山田出羽守信有の時代である。小山田越中守信有が居館を中津森(現金井)から谷村に移したのは天文元年(一五三二)である。小山田氏が谷村に館を移したことにより、戦国期の城下町の市場として、ますます発展したことがうかがえる。

おおきな夢を絵にしよう 第16回未来の科学の 夢絵画展 作品募集

あなたの未来の夢を自由に描いてみませんか。発明協会では全国のお友達に呼びかけています。

優秀な作品は、来年四月に開催予定の全国展に展示されるほか、文部・通産大臣賞、科学技術庁・特許庁賞などが用意されています。

主催 都団法人発明協会
応募資格 小中学校児童生徒
画材 絵の具、クレヨン、サインペンなど自由

絵の大きさ 画用紙B3または四つ切(36・4センチ×51・1センチ)

応募・問合せ先 都留少年少女発明クラブ
(市教育委員会内)

ふるさとの



10月

10日 市民運動会 市内各地
金毘羅神社秋の例祭
12日 お会式 東漸寺
28日 不動尊例祭 龍石寺

11月

1〜3日 文化祭 文化会館他

第5回尾県学校写生大会

尾県学校は、明治初期としては画期的であった藤村式と呼ばれる擬洋風建物です。明治11年(1878)に開校し、115年たった今でも当時の姿そのままにあります。

この建物は昭和50年に県の有形文化財として指定され、現在は郷土資料館として、市内はもとより県内外からも多くの方々に訪れていただいています。

今年も、この建物をさらに皆さんに親しんでいただくため、写生大会を開催します。指導員もおりますので、初心者の方も気軽に参加してください。

なお画用紙は用意しますが、絵の具やクレパス等の画材は各自でご用意ください。

また、皆さんの作品は11月に開催予定の木村しゅうじ・田中豊美さんの動物原画展と同時に展示します。

開催日 10月24日(日)午前8時30分～正午

定員 50名

申込締切 10月20日(水)

申込・問合先

市教育委員会社会教育課・尾県郷土資料館 ☎(45)0675

午前10時～午後4時(月・水・金は休館)

第3回野外植物観察会

「かたわらに秋草の花語るらし滅びしものはなつかしきかな」と牧水の詠んだ秋の草々をたずねます。春の花のような華やかな姿ではなく、静かに冬を迎えようとする植物の姿を学びたいと思います。

今回のコースは晩春に行った宝鉾山付近と「いきものふれあいの里」予定地です。秋の陽差しも強いので、帽子などを用意して歩きやすい服装でご参加ください。

日時 10月16日(土)小雨決行午前10時30分～午後2時
雨天の場合は23日(土)に延期します。

集合場所 グリーンロッジ入口

※昼食は各自持参

参加料は無料ですが、保険料として1人100円をご負担いただきます。また、バスを利用される方は、都留市駅午前9時50分発宝鉾山行きにご乗車し、お帰りは宝鉾山午後2時10分発をご利用ください。

定員 40名

締切 10月14日(木)

申込・問合先 市教育委員会 社会教育課